

就労継続支援
事業所の取組
好事例集

目次

はじめに.....1

新型コロナウイルス感染症による就労系障害福祉サービス事業所への影響に関するアンケート調査から見えてくるもの3, 4

コロナ禍でも元気な熊本の事業所

コロナ禍においてもその影響をものともせず、ピンチをチャンスにかえてがんばっている事業所さんがあります。そのエネルギーの秘訣を教えてください。

翔「人は宝」
障がい者ではなくひとりの「働く人」として企業に信頼される人材育成7, 8

ゆうワークス「小さいことでもコツコツと」
企業との単価交渉ができるWin-Winな関係づくり9

社会就労センターライン工房「なんてたって営業」
目標工賃達成指導員配置加算を活用した営業担当者による積極的な販路拡大10

協働による新たな取組

福祉の枠を超え多職種との連携によるチャレンジがはじまっています。福祉と手をつないだクリエイターの方々と一緒に新たな福祉事業所の可能性を探します。

itiiti × ハッピーエコワーク「新たな価値づくり」
クリエイターのひらめきにより生まれ変わる福祉事業所の作品11, 12

BRIDGE KUMAMOTO × トイロハンドワークス「社会的課題への挑戦」
ものづくりの担い手として障がい者が活躍できるモデルケースづくり13

Ladybug × 阿蘇くんわの里「企業と福祉事業所とのパートナーシップ」
企業の商品づくりを支える福祉事業所14

オーラルピース × はーとアラウンドくまもと（ひまわりパン工房）「共同販売」
企業と福祉事業所との連携による販路拡大の仕組みづくり15

カエルデザイン × リハビリ型就労スペース「リハス」「サスティナブルなものづくり」
海洋プラスチックをアクセサリーに変えるアップサイクルプロジェクト16

県外のさまざまな取組

福祉は楽しい！そんな感動をくださる魅力的な福祉事業所さんが日本にはたくさんあります。独創的で先駆的な全国の活動から、熊本でも生かせるヒントをいただきます。

NPO法人まる・株式会社ふくしごと
「福祉をかえる」17, 18

特定非営利活動法人色えんぴつ・喫茶色えんぴつ 「無理せず、でもあきらめない」	19
株式会社MODESTLY・asoBe 「全員で真剣に遊ぶ」	20
株式会社かまくらや・信州SOBA農房かまくらや／そば処かまくらや 「ニーズがあって仕事生まれる」	21
ハッピーライフ合同会社・ハッピーライフ 「最大限の制度活用」	22
農業生産法人 株式会社百姓百笑 「全力で農福連携」	23
社会福祉法人愛心会・屋久の郷 「個性を生かした豊かな場づくり」	24
NPO法人AlonAlon・AlonAlonオーキッドガーデン 「利用者のハッピーの延長線上にある事業の成功」	25
社会福祉法人ゆうゆう・当別町共生型コミュニティ農園 ぺこぺこのはたけ 「福祉の領域を越えた地域づくり」	26

困りごと相談応援チームとの新たな取組

今回の困りごと相談事業のなかで、最もご相談が多かった商品の改善と販売方法。これまで培ってこられた技術を生かしながら、さらに事業所の特色・強みとなるような商品づくりを進めています。その先の新たな販路についても取り組んでいく予定です。

クラウド熊本	「技術力とチームワークで前進し続ける！」	27, 28
ハピネスワーク	「求められるものに応える！」	
第二城南学園	「既存の商品を新たな強みを」	29
Re (rererenore)	「商品販売のポイント」	30

困りごと相談応援チーム座談会

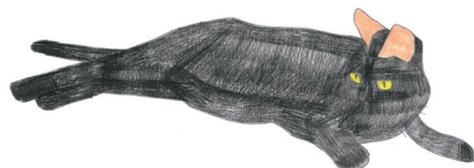
困りごと相談応援チームが事業所さんからいただいた相談を振り返り、コロナ禍にも負けたくないたくましい福祉事業所について考えました。私たちの気づきが事業所のみなさんの少しでもお役に立てると嬉しいです。

テーマ「たくましい福祉事業所について考える」	31, 32
------------------------	--------

福祉事業所の協力機関・団体の紹介

福祉事業所の経営や商品に関して応援をしている機関や団体を紹介します。……………33

編集後記……………34



はじめに

熊本県では、新型コロナウイルス感染症の影響により困りごとを抱える就労継続支援事業所（以下「事業所」）に対し、様々な支援を行っており、その一つとして「熊本県新型コロナウイルス感染症に係る就労系障害福祉サービス事業所困りごと相談窓口設置等事業」（以下「困りごと相談窓口設置等事業」）に取り組み、この事例集を作成しました。

新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえた新たな生活様式が求められる中、事業所においても、新たな生活様式に対応した事業スタイルの構築が必要となっています。

そのため、この事例集では、各事業所の新たな取組に生かしていただけるよう、県内の、コロナ禍でも元気に活動する事業所や企業との協働による新たな取組を行っている事業所、熊本でも取り入れられるヒントのある県外の事業所を紹介しています。

事例集作成は、熊本県の「困りごと相談窓口設置等事業」を受託したNPO法人 KP5000が行いました。

【困りごと相談窓口設置等事業】

「相談窓口の設置及び相談業務」と「新たな生活様式に対応した事業スタイル（販売方法等）検討」の2つを柱に事業を実施。

〈取組内容〉

- 相談窓口を設置し、相談内容の解決等に向けた助言を実施
- 相談内容を整理し、その解決に必要な情報提供や支援機関を紹介
- 県内の就労継続支援事業所のコロナ禍の状況を把握するためアンケート調査を実施
- 全国の優良事例を紹介する好事例集を作成
- 就労継続支援事業所の相談内容に対応するための研修会を開催

上記相談窓口に関わった相談員がチームとして事業を推進し、アンケート調査や全国事例の調査等を実施しました。

上記で実施したアンケートについては、コロナ禍の県内事業所の状況をお知らせするため、事例集の中に概要を掲載しています。

【困りごと相談応援チーム（相談窓口相談員）の紹介】

原田文子（はらだ・ふみこ）

- ・総合相談窓口担当。
- ・各事業所からの相談を受け課題を整理し、必要な情報の提供や専門機関への橋渡しを行う。
- ・NPO法人KP5000代表理事

林信吾（はやし・しんご）

- ・経営面全般を担当。
- ・助成金や融資獲得などの資金調達面のアドバイスや研修会の企画等を行う。
- ・株式会社E代表取締役

山田裕一（やまだ・ゆういち）

- ・事業所運営・利用者に関する相談担当。
- ・発達障害児者の支援・障害者職業カウンセラー等の経験を活かし、利用者支援や福祉制度に関するアドバイスや、コロナ禍における就労継続支援事業所の現状と課題について調査研究を行う。
- ・立命館大学生存研究所客員研究員、相談支援専門員、精神保健福祉士

國吉晴美（くによし・はるみ）

- ・商品担当。
- ・福祉事業所の商品制作や販売方法などについてのアドバイスを行う。
- ・オモロキ協働舎オーナー



新型コロナウイルス感染症による就労系障害福祉サービス事業所への影響に関するアンケート調査から見えるもの

◆はじめに

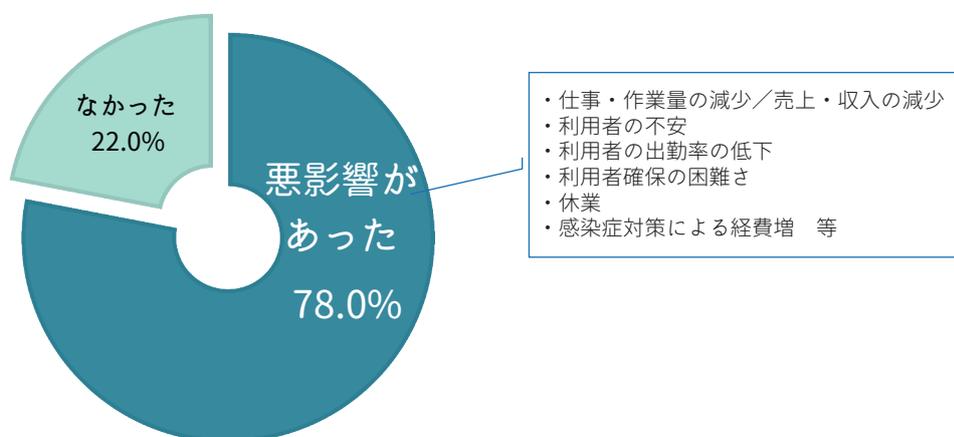
本アンケートは熊本県内の障害福祉サービス事業所の中で就労継続支援A型・B型全395事業所（熊本市135＋熊本県（市外）260）に依頼をし、123事業所の回答を得たものである。（アンケートの実施期間：令和2年11月24日～12月4日）

本稿ではその一部を紹介し、県内の事業所が置かれている状況を見ていきたい。本稿はあくまでも概要であり、詳細については別途報告する予定である。

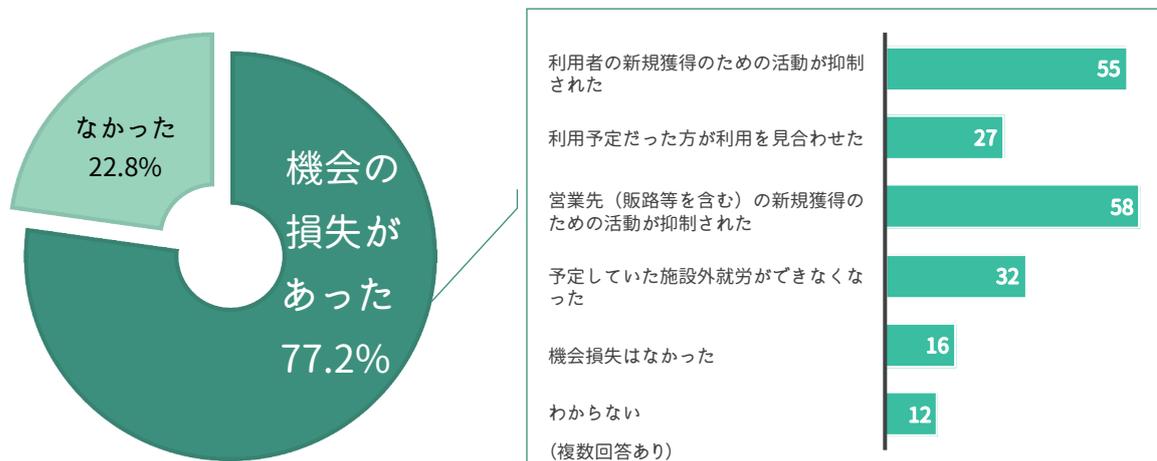
◆コロナ禍における事業所への影響について

「コロナ禍による何らかの悪影響があった」と回答した事業所は78.1%と8割近くにのぼった。相談員による事業所への聞き取りや相談を通して状況把握を行ったところ、「商品の販売機会の減少」「受注する仕事の減少」「利用者の不安・感染への恐れによる利用控え」「事業所の判断による自宅待機命令等、先の見通しのつかないことから利用者のストレスが積み重なる」等の要因が考えられた。また、複合的な要因から出勤率の低下もあり、「営業による売上が減った事業所」が84%ある上に、感染対策による経費がかさむ等、営業利益が大幅に減少し、経営を圧迫している。更に「新規利用者の獲得や営業先の開拓等の機会損失があった事業所」が77.2%あり、今後の展望が見通せないでいる事業所が多いことが伺えた。

◇新型コロナウイルス感染症による事業所への影響



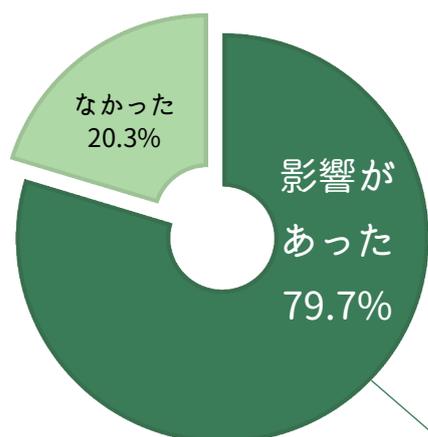
◇事業所の機会損失について



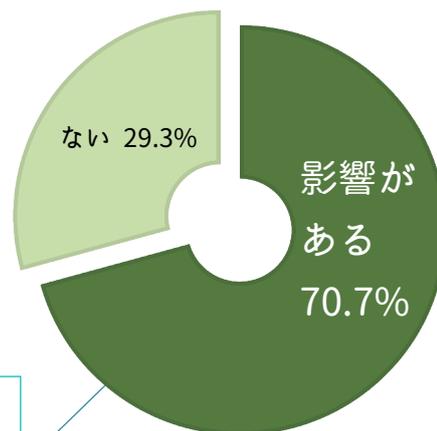
◆コロナ禍による今後の展望

「コロナ禍による短期的な影響があった」と回答した事業所は79.7%で、「コロナ禍による長期的な変化があった」と回答した事業所は70.7%であった。「今後の事業経営の継続ができない不安がある事業所」は44.7%に上り、その中には「1年以内の廃業も考えている事業所」も少なからずあった。コロナ禍による運営の困難、経営の継続の難しさは一過性のものではなく、中長期的な継続が予測され、経営者の不安に加え、利用者や職員の不安も大きいものと推察された。

◇短期的な影響の有無

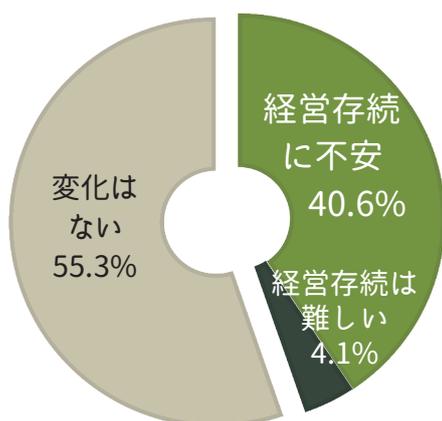


◇長期的な影響の有無



- ・作業の減少
- ・研修等の減少
- ・見学者の減少
- ・作業内容の変化
- ・販路の減少
- ・出勤率の低下 等

◇今後の事業所経営の継続について



◇新たな取り組み例

インターネット販売による販路拡大
店頭（屋外）販売
新たな委託先の開拓
他事業所とのコラボ商品の販売
新商品の開発
他団体との協力による販路開拓

◆逆境に向き合うバラエティ豊かな取組

そのような現状を打開しようと様々な工夫や新たな取り組みも行われている。例えば、新たな事業への参入やオンラインショップの開設、外部との協働による商品の開発等様々な試行錯誤が行われている。本冊子では熊本県内外の事業所の創意工夫やコロナ禍だからこそその取り組み等も新たな視点やポイントを示しつつ紹介していきたい。

(立命館大学 衣笠総合研究機構 生存学研究所 客員研究員 山田裕一)

就労継続支援事業所の取組好事例



コロナ禍でも元気な熊本の事業所

コロナ禍においてもその影響をもとめせず、ピンチをチャンスに変えて頑張っている事業所さんがあります。そのエネルギーの秘訣を教えてください。

翔

人は宝

NPO法人熊本福祉会
翔
就労継続支援A型事業所
熊本市西区田崎2丁目1-69
農業

コロナ禍の影響

コロナ禍で海外からの野菜の輸入がストップし、国内産の野菜の需要が増えたため、生産や収穫、袋詰加工などの作業が常にあるというありがたい状況となり、仕事が増えました。

コロナ禍でも仕事を増やすことができた理由

これまでの仕事を通して、利用者が企業から求められる人材になっていたからだと思います。現在、取引をしている企業からは、「なくてはならない必要な存在」として認められています。

ポイント

- ・利用者に対し、障がい者としてではなく、「社会人として活躍できる働く人になってほしい」という思いで向き合う
- ・お互いを思いやり、感謝することのできる利用者同士のチームづくりを大切にする

成果・効果

- ・一人ひとりとしっかり話し合い、障がいという個性も含め、お互いを理解し合うことで、仲間としての絆が深まり、困難なことにも事業所が一丸となって立ち向かうことができるようになった
- ・利用者間に、自然とフォローし合える先輩後輩のような関係性が築かれ、安心して仕事を任せられるチームに育っている

ともに働く仲間の絆を大切にする翔。

障がい者ではなくひとりの「働く人」として企業に信頼される人材育成についてのお話を伺いました。



社会に送り出す一翔の考えるA型事業所の役割—

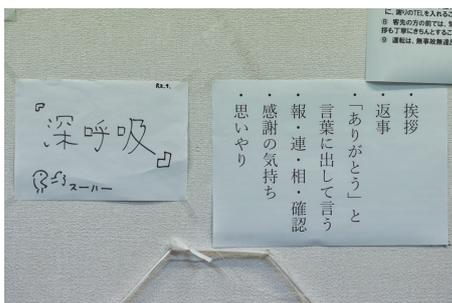
利用者を福祉事業所で抱え込まず、一般企業に求められる人材として育て、社会に送り出すことです。

ポイント

- ・仕事を通して、社会の中にある障がいへの偏見や差別を崩していくためのきっかけづくりをしていく

成果・効果

- ・働く前は、障がい者にできるのだろうかと思っていた企業から、実際に働く姿を見てすごいと驚かれた



農福連携のあり方—翔が目指すもの—

単に農業の担い手不足を補うための福祉ではなく、企業と対等の関係を築くことを目指しています。

ポイント

- ・企業への派遣会社ではないので、年間契約以外では断る
- ・突然の契約打ち切りがあった時は、利用者と一緒に自分たちの弱さと強さについて徹底して話し合い、チームの力をさらに強化
- ・利用者の働く姿を通して企業との信頼関係をつくり上げていく





成果・効果

- ・大きな農事組合法人と契約を締結できた
- ・企業側の職員とは、ともに働く仲間として声をかけられるようになり、障がいの壁がない関係となった

人は宝—日々の活動で大切にしていること—

いちばん大切なものは「人」です。人は宝です。だから「人を育てる」ということを一番大切にしています。

ポイント

- ・「挨拶、返事、報告連絡相談、思いやり、感謝の気持ち、気づく人になる」ということを、毎日繰り返し伝える
- ・利用者に伝えることは、まずスタッフが手本となるように実践する
- ・事業所の経営についても利用者と一緒に考える
- ・経営者も職員も、利用者に支えられているという感謝の気持ちを忘れず伝える
- ・利用者同士の絆作り

成果・効果

- ・始めの頃は不安そうな顔をしていた利用者が、お互いを必要とし合える仲間と出会い、自信と笑顔を取り戻すことができるようになる
- ・利用者が事業所の運営に主体的に関わってくれるようになり、事業所一丸となって新たなチャレンジができ

翔のこれからの希望や展望

利用者には、夢を持って社会に羽ばたき、幸せをつかんでほしい。

そのためにも、今後は、自分たちで育てた野菜の加工販売に取り組み、個人農家さんのための選果場をつくり、地域に貢献できる株式会社を築きたいです。さらに、その会社ではA型事業所の利用者を職員として雇用し、運営に携わってもらいます。定年は設けず、死ぬまで働ける会社を目指します。

それから、仕事だけでなく、「最後の居場所」もつくりたいと思っています。これまで一緒に働いてきた仲間が仕事を辞めバラバラとなり、孤独になっていくことはとても辛い。だから、最後まで苦楽をともにできる住まいをつくりたいです。一度出会ったら家族だと思っている私には、利用者と最後まで支え合って生きていく覚悟があります。そこで酒を飲みながら、自分の悪口を言って笑ってほしい。そして、翔にきてよかった、この仲間に出会えてよかったと、一瞬でも思ってもらえたら最高です！



NPO法人熊本福祉会理事長 奥野 靖夫



事例のポイント 社会に羽ばたく「人」づくり

- ・障がい者としてではなく、ひとりの人間として向き合い、「働く人」を育てる

ゆうワークス

小さいことでも
コツコツと

ゆうワークスは、A型事業所の仕事を受託する際に企業と話し合いをすることを大切にしています。そうした企業とのWin-Winの関係の築き方について教えていただきました。

NPO法人ゆうステーション
熊本ゆうワークス
就労継続支援A型事業所・B型事業所（今回はA型事業所を取材）
熊本市中央区平成3丁目7番10号
受注作業（商品の形成、部品組み立て、シール貼り）
施設外就労、自主製品製造販売



コロナ禍でも全体的な売上を落とさなかった理由は？

取引先のなかで、コロナ禍の影響をあまり受けなかった企業から仕事を多めにいただけたおかげで、仕事量は減りませんでした。



ポイント

- ・企業とは日頃からよく話をするよう心がけ、担当者と顔を合わせるたびに仕事がある時は声をかけてもらえるよう相談
- ・企業側のスケジュールをリサーチ
- ・取引企業に貢献するという意識を常に持って仕事に取り組む
- ・納期は必ず守り、商品の見栄えについてもお客様が手を伸ばしたくなる工夫をする

成果・効果

- ・利用者の中には休みの日に自分たちが製作した商品が並ぶ店に行き、お客様の反応等を報告してくれる人までいる
- ・「企業と一緒に売上を伸ばしたい」という気持ちが先方にも伝わり、このコロナ禍においても私たちに仕事を任せていただけたのではないと思う

企業との信頼関係を構築するために大切にしていること

企業とはWin-Winの関係を目指し、お互いが納得して仕事をするを大切にしています。

ポイント

- ・スタッフが作業をやってみて課題と解決策を話し合い、自分たちがやりたいと思える単価を提示
- ・企業から仕事を受ける際にこちらから見積もりを出し、単価設定の検討を依頼

成果・効果

- ・新たな仕事をするたびに、利用者の持ち味が生かせるやり方や工夫を考えた結果、スキルやスピードが上がり、さまざまな仕事に応用が利くようになった
- ・経験と知恵の積み重ねで自分たちの仕事の価値を実感できるようになり、企業と価格交渉ができるまでになった
- ・見積もりが高いと断られた場合も、相談を重ね企業との折り合いが見つかる場所を探す
- ・利用者とスタッフが力を合わせ築き上げてきたその価値はできるだけ安売りしない

稼げる福祉—ゆうワークスが目指すA型事業所のあり方—

収入が増えることは、働きがいにもつながります。最低賃金で満足するだけではなく、みんなで売上を意識し、より良い仕事ができる組織でありたいです。ゆうワークスにご縁のある利用者そしてスタッフが、働きがいを感じ、仕事を通して自分の成長を実践できる事業所でありたいと思っています。

ポイント

- ・毎月の売上は利用者にも必ず伝える
- ・賞与支給を目指す！目標を具体的に設定し、毎年の売上を安定させていくことが大切



NPO法人ゆうステーション熊本理事長
賃金向上達成指導員
江島 猛



事例のポイント 企業とWin-Winの関係を築く

- ・企業とは日頃からコミュニケーションをとり、仕事づくりを意識する
- ・利用者・スタッフが力を合わせて企業に信頼される技術力を備え、しっかりと価格交渉をする

ライン工房は、目標工賃達成指導員配置加算を活用し営業担当者を配置されています。福祉事業所では販路開拓が難しいという声をよく聞く中で、積極的に販路を拡大されている元吉さんに営業の大切さについての話をお聞きました。

社会就労センター ライン工房

なんてつつて営業

社会福祉法人ライン工房
社会就労センターライン工房
就労継続支援B型事業所
熊本市東区戸島5丁目8-6
全粒粉クッキー、天然酵母パン、焼き菓子、自家焙煎コーヒー等の製造、販売、その他軽作業



元吉さんの仕事（活動内容）

商品を取り扱ってくださる卸先に毎日訪問し、商品の補充や売り場のメンテナンスなどを行っています。訪問先ではできるだけお客様の声を伺い、それをもとに、事業所全体で売り方の工夫や改善に努めています。



コロナ禍の影響とそれに対して工夫したこと

契約継続できなくなった卸先や移動販売先もあり、売上が落ち込んだ時もありました。けれど、コロナ禍でも全体的な売上は下がらず、むしろ、ありがたいことに上がりました！

ポイント

- ・新たな取り組みへのチャレンジ
デリバリー方式の販売を開始。パンやお菓子等のチラシと注文表を利用者さんのご家族やお付き合いのあった関係機関に配布
- ・これまでの活動の継続
- ・企業さんや地域のお店への「置き菓子サービス」
- ・日頃からの営業活動

成果・効果

- ・デリバリー方式の販売方法も定着し、リピーターのお客様や新規取引先が増えた
- ・「置き菓子サービス」は、お客様の口コミのおかげで設置先が増加
- ・日頃からの営業活動のおかげで、コロナ流行前に交渉していた大手企業と契約ができた

働く喜びーライン工房が考えるB型事業所の役割ー

売上が良い時は利用者さんにボーナスをお渡しし、いつもとちょっと違った生活を楽しんでいただくことで、利用者さんの暮らしが少しでも豊かになってほしいと思っています。また、利用者さんに働く喜びを感じてもらうことも、私たちの役割だと思っています。

ポイント

- ・お客様からの声はできるだけ伝える
お客様の「ありがとう」や「おいしい」の言葉は、利用者さんを笑顔にする。その笑顔が営業活動の力となる

日々の活動で大切にしていること

とにかく営業。商品の売上が工賃につながることを常に意識して営業しています。

ポイント

- ・知ってもらうこと
「商品づくり」という仕事を継続していくためには、まず商品を知ってもらうことが必要。断られても、ライン工房の名前を知ってもらえただけでよかったと考える
- ・商品の見せ方
お客様の視点で、商品のレイアウトや季節のイベントに合わせたポップを作成し、目に留めていただけるように工夫する

これから取り組みたいこと

ライン工房の商品の認知度を上げていきたいです。商品を通して、ライン工房という事業所を、そして、そこで働いている利用者のみなさんのことを地域の方にもっと知ってもらい、交流を深めていきたいと思っています。

社会福祉法人ライン工房
目標工賃達成指導員
販売促進責任者 元吉 拓郎



事例のポイント 営業の大切さ

- ・商品の売上が利用者さんの工賃につながることを意識して、日頃から営業活動に取り組む
- ・お客様の声を生かした、目を引くような商品の見せ方や売り方を工夫する

協働による新たな取組

福祉の枠を超え多職種との連携によるチャレンジがはじまっています。

福祉と手をつないだクリエイターの方々と一緒に新たな福祉事業所の可能性を探します。

itiiti × ハッピーエコワーク

itiitiとハッピーエコワークが一緒につくったアクリルたわし「rakugan（ラクガン）」が注目されています。itiitiのひらめきによって生まれ変わった福祉事業所の作品の誕生秘話をこっそり教えていただきました。



itiiti（イチイチ）

ムラカミキミさんとタナカノリコさんによるプロダクトユニット。

熊本を拠点に日常に必要なものや皆が素通りするような些細なことに目を止めて向き合っていくことを大切にしています。建築を経験した2人が身近な素材に閃きや発想の転換を加え新たな価値と新たな繋がりを提案します。

福祉事業所との出会いと「rakugan」の誕生

ハッピーエコワークさんとの出会いは3年程前になります。ハッピーエコワークさんが経営されている雑貨と喫茶のお店「Chique（シキ）」さんにお邪魔したのがきっかけです。とても居心地が良かったので、打ち合わせや新作をつくる際に何度か使わせてもらっていたら、いつの間にかハッピーエコワークの村本さんと話すようになって、福祉事業所でもものづくりをされていることを知りました。仕事を頼める場所があることを知って、ぜひお願いしようと思いました。

初めて依頼した仕事は、い草でつくっているアクセサリーの制作過程の作業です。一緒に仕事をするようになって、ハッピーエコワークさんを訪問した時に、アクリルたわしが目に止まりました。そして、ひらめきました。ハッピーエコワークさんがアクリルたわしをつくっていなかったら、このインスピレーションは湧いてこなかったと思います。それに、私たちの作品ではできなかった以前から温めていたパッケージもこの「rakugan」で実現することができました。

ハッピーエコワークとの協働についての感想

ハッピーエコワークさんには、安心して仕事を頼めます。しかも完成度も高い！だから、福祉事業所をお願いしているという感覚はありません。それに、作業の経過を細かく報告してくれるのでとても信頼できます。福祉事業所には、村本さんのようにしっかり作業のサポートをしてくれる人がいるので、とても安心して仕事をお任せすることができます。これまで自分たちでしていた作業をしてもらえることで、別のことができる時間が増えて助かっています。

また、私たちがつくっているアクセサリーはとても細かい作業が多くて大変なのですが、どうすれば効率よくできるかを何時間も話し合い、一生懸命試行錯誤しながら考えてくれるのでとても心強い存在です。

例えば、支援員さんが、利用者さんが間違えずに細かい作業ができる方法を研究し、オリジナルの道具を作って、スムーズに作業ができるようにしてくださいました。その道具を見せてもらった時には「こんなやり方があるなんて！」と驚かされました。すぐに私たちも取り入れさせていただき、以前より作業がはかどるようになりました。自分たちだけでは到底思いつかない視点で、福祉事業所さんと一緒に仕事をさせていただいたからこそできることだなあと、ありがたく思っています。

それと、作品が売れた時の嬉しさが2倍になりました！これまでは自分たちだけの喜びでしたが、一緒につくったハッピーエコワークさんも評価してもらえているんだと思うととても嬉しいです。



い草を使ったアクセサリー



コラボレーション作品「rakugan」

これからハッピーエコワークと一緒にやりたいこと

私たちは素材を見て、それをもとに作品をつくるのですが、これからもハッピーエコワークさんにある色々な素材にひらめきを得ながら、新しい作品をつくっていききたいです。

ものづくりをしている福祉事業所へのメッセージ

私たちとハッピーエコワークさんはとても馬が合います。他の事業所さんたちにも、きっとそういう人がいると思うので、アンテナをしっかりとって、ぜひ探してみてください。



ハッピーエコワーク・村本詩子さんの感想

itiitiさんと一緒に仕事をさせていただくようになって、いいことしかありません！itiitiさんは販売までお手伝いしてくれるので、これまで、私たちだけでは置くことのできなかったお店でも取り扱っていただけるようになりました。

美術館で開催された展示会で、アーティストの方々がつくられた素敵な作品と一緒に「rakugan」が並んでいて、しかも、それが売れたことはとっても嬉しかったです。自分たちがつくったものが売れると、利用者さんのつくる姿勢も変わります。「きつい」って言わなくなりました。きっと仕事にやりがいを感じる事ができているからだと思います。

今まで私たちも一生懸命にものづくりについて考えてはきたのですが、やはり、福祉事業所だけでは限界があります。今回、itiitiさんの手により、どこにでもあるアクリルたわしが全く新しいものに生まれ変わり何倍もの価値をつけてくれました。この経験を通して、プロの方に協力してもらうことが本当に大切だと再認識されました。これからも、それぞれに良いところを伸ばしながら共存していきたいです。



村本 詩子
株式会社ハッピーエコワーク
役員
作業支援員

株式会社ハッピーエコワーク
ハッピーエコワーク
就労継続支援A型事業所
熊本市南区富合町杉島983-1
商品製造販売・委託作業（インターネットショップ販売管理等）、施設外就労



BRIDGE KUMAMOTO × トイロハンドワークス

熊本地震をきっかけに設立されたBRIDGE KUMAMOTO。クリエイティブの力で社会課題の解決に取り組み、数々のプロジェクトを実行し続け、県内外から注目を集めています。トイロハンドワークスと協働で制作した「熊本城瓦御守」も大きな話題を呼び、生産が追いつかないほどのヒット商品となりました。ものづくりの担い手として障がい者とのつながりを広げ続けているBRIDGE KUMAMOTOが考える「福祉事業所との協働」について、代表の佐藤かつあきさんにお話をうかがいました。



佐藤 かつあき
BRIDGE KUMAMOTO代表



一般社団法人BRIDGE KUMAMOTO

熊本市中央区新町2-2-23

あらゆる分野のクリエイターと企業・団体・個人をつなぎ、新たな協業の形を創出する。それをもって災害復興支援や地方創生、若者の雇用などの社会的課題を、クリエイティブの力による、独自性のある革新的なアイデアで問題解決することを目的とした事業を行う。

福祉事業所と一緒に仕事をしようと思ったきっかけやその想い

SDGsに興味があって、その中の「つくる責任、つかう責任」という項目に注目していました。それから「どこでだれが作っているか」を掘り下げて考えるようになりました。

動機は単純で、どうせモノづくりするなら、さまざまな社会課題に寄与したほうが良いと思い、作業をすべて洗い出して業務委託できる部分があれば、お願いしていこうと考えました。

福祉事業所と一緒に仕事をした感想

「この作業できますか？」という問い合わせのほとんどが可能だったので、驚きました。そしてコストも適正か、安いと思いましたが、「ありがたい」「助かった」という感想が正直なところ。あとは、仲介者、はーとアラウンドくまもとの矢上さん（UMU）の存在が大きいです。矢上さんじゃなかったら、ほとんど実現していなかったように思えます。苦労は、特には無いですが、ぼくらが障がい福祉についての知見が足りなさすぎるので、時間をかけて、もっと呼吸が合っていくと良いなと思いました。

売れる商品やファンづくりについてのヒント

そのモノ自体というより、発信が第一だと思っています。難しいのですが、何度も何度も同じことをいろんなチャンネルで言い続けることが大事だなと思っています。「お客さんは忙しいし、話を聴いていない」くらいの想定でいます。選挙の「辻立ち」に近いかもしれません。それをSNSなどで行っているようなイメージです。

アイデアは何かと何かの組み合わせでしかないと思うので、難しく考えずに、2つか3つのモノの足し算から始めています。先行事例とか真似できるモノもどんどん真似ています。

トイロハンドワークス・代表 山本さんの感想

BRIDGE KUMAMOTOさんとは、地域社会課題の解決を図れるようなプロダクト開発を通し、モノづくりの担い手として障がい者が活躍できるようなモデルケースづくりをしています。そうした活動を通して、福祉事業所に足りない、モノの良さを求める姿勢や工夫、ブランディングの大切さを学びました。

また、外部と連携する際は、できることできないことはあれど、挑戦していく意欲と姿勢を持って、それぞれの立場からの意見を前向きに議論し合うことが必要です。

これからも、もっと他業界とつながり、知見を広げ、モノづくりの可能性を広げていきたいと思います。支援だけで終わらない、ひとつの企業として飛び抜けていきましょう！

合同会社という
トイロハンドワークス
就労継続支援B型事業所
熊本市東区若葉1丁目43番22号
バリアフリーウェアの製造・開発、
キャンドル製造、畳小物づくり等



山本 智恵子
トイロハンドワークス代表

今後の展開や目標（福祉事業所へのメッセージ）

これからも新しいコラボレーションを生み出していきたいと思います。各事業所さんの個性が見えてくると、オリジナリティの強い企画が生んでいけると思うので、今後もお互いの良さが活きる道を探っていきたくと思っています。目標は、とても難しいですが、ヒット商品をたくさん作りたくです。

人はひとりでは生きていけないし、誰もが何らかの障がいを負う（負っている）ものだということや、医療は発達していくので、障がい福祉はこれまで以上に重要な分野になっていくということを、皆さまに教えて頂きました。

お互い、これまで通りのやり方だけでは、行き詰まると思いますので、いろんな人たちを巻き込んで、少しでも前に進めたら良いなと思います。いつもありがとうございます

地震で壊れてしまった熊本城の瓦を、被災地で使われたブルーシートで包み、二度と落ちない「後不落」の瓦と記した「熊本城瓦御守」は、全国各地から買い求められ、受験生への贈り物として喜ばれました。



Ladybug × 阿蘇くんわの里

全国にたくさんの愛用者がいらっしゃるLadybugの石鹸。厳選した材料を合わせて、ゆっくりと愛情込めて丁寧に作られた石鹸の基準は「我が子に安心して使わせることのできるもの」。熊本の恵みを生かした材料で作られた定番商品のほか、県内外の企業やさまざまな地域とのコラボレーションによる特色豊かな石鹸も手掛け、話題を呼んでいます。そんな品質、使い心地ともに実力派のLadybugさんの石鹸を支えているのは、阿蘇くんわの里さん。「くんわの里さんはLadybugの大切なパートナーなんです」とおっしゃるオーナーの豊田希さんに、福祉事業所との協働についてお話を伺いました。



豊田 希
Ladybugオーナー



Ladybug (レディバグ)
熊本県阿蘇郡高森町色見1453-15
石鹸の製造販売
阿蘇くんわの里に石鹸の包装業務を依頼している

福祉事業所と一緒にしようと思った理由やきっかけ

兄がくんわの里の利用者としてお世話になっており、そこで化粧品の包装作業をしているのを知ったのがきっかけです。

福祉事業所と一緒にやってよかったことや苦労話

よかったことは、石鹸を包装する設備が整っていたことや、仕事が早くて丁寧なところ。新商品の包装に関してなど相談に乗ってくれて、共に取り組みようとしてくれるところ。

苦労したところは、「これくらいはOKかどうか」の塩梅の共有。最近はずいぶん分かり合えるようになりました。

福祉事業所と一緒に仕事をする日々の活動で大切にしていること

協力。

平等な立場で、一緒に作り上げているんだという気持ち。くんわの里さんの商品開発においてもこちらができることがあれば惜しみなく協力していきたいと思っています。



協働による新たな取組



コロナの影響とその対応策

感染拡大防止のために、何回か工場が止まってしまい品薄になったこと。最初に止まった時の反省を生かして、次にいつ止まっても大丈夫なようにストックを増やしたことで、2回目以降ストップした時はダメージは少なく済んだように思います。余裕のあるうちに利用者さんたちが頑張ってくれたことに感謝しています。



今後の展開や目標（熊本の福祉施設へのメッセージ）

「Ladybugと関わってよかった！」と施設の利用者さんが思ってくれるような商品を作り、育てていきたいです。福祉事業所は他企業との交流によってスキルを磨き、開発者の想いなどを聞いて意識を高めることで、オリジナル商品の価値を上げていくことができると思います。

利用者さんが働く喜びを感じてくれるような関わりをする企業が増えることを期待します。



社会福祉法人やまなみ会
阿蘇くんわの里
就労継続支援B型事業所
熊本県阿蘇市黒川431
化粧品製造販売業 他



販売サイト

オーラルピース × はーとアラウンドくまもと (ひまわりパン工房)

「共同で取り組み販路を広げ、工賃アップにつなげたい」はーとアラウンドくまもとは、障がい者の仕事創出と収入向上や社会参加の創出を目指すオーラルピースプロジェクトに賛同し、3年前より口腔ケア製品「オーラルピース(歯みがきジェル・マウスウォッシュ)」の共同販売に取り組んでいます。

オーラルピースの仕入れは、はーとアラウンドくまもとが一括で行い、各事業所が在庫を抱えるリスクを極力軽減するようにして、必要な数量だけを卸価格で仕入れられる仕組みを確立しています。オーラルピースの販売によって得た利益は、利用者の工賃に充てられています。

はーとアラウンドくまもと

代表：福島貴志

熊本市北区貢町780-8 (特定非営利法人自立応援団就労支援センターくまもと内)

障がい者福祉施設商品の販売・PR・共同開発、商品開発のためのセミナー・ワークショップ、事業所間連携での共同受注



オーラルピースプロジェクトとは

研究者・医療者・教育者・起業家・クリエイター等の100名を超える様々な分野のメンバーが集まり、世界の介護者の負担低減、介護費用の低減、健康寿命の延伸、環境保全、また事業を通じた収入の少ない全国の障がい者の仕事創出、災害被災地支援という社会活動に挑戦しているソーシャルプロジェクトです。



オーラルピース製品とは

世界で食品認可された唯一の抗菌ペプチド(バクテリオシン)であるナイシンから生み出された特許製剤「ネオナシン-e®」が、口腔内のミュータンス菌・Pg菌・カンジダ菌・大腸菌・黄色ブドウ球菌等のトラブル原因菌に、これまでの抗生物質や合成殺菌剤、植物毒系抗菌剤以上に超低濃度で瞬時にアプローチ。飲み込んでも安全な食品成分100%・ケミカルフリーの歯磨き・オーラルケア製品。

水がなくても使える・生分解性が高くからだや環境に優しい特徴から、要介護高齢者や闘病者・障がい者にとどまらず、家族の健康を気遣う方、ケミカル成分を摂取したくない方、乳幼児や妊婦、授乳中のママ、水の使用が限られる災害被災地や登山などのアウトドア、大切な家族であるペットへの有用性も認められ、福祉施設だけでなく、百貨店や全国の先進的なセレクトショップにも取り扱われています。また、革新的なメイドインジャパン製品として海外に輸出され、国際宇宙ステーション(ISS)の搭載候補品にも選ばれています。

オーラルピース販売店・ひまわりパン工房に販売状況をうかがいました

2年前より販売をはじめたのですが、少しずつ売れるようになってきました。オーラルピース製品の安心・安全という良さをわかっていただけのリピーターのお客が増えてきたおかげで、定期的に売れています。

これまでは、店頭で商品とその説明文を置いていただけなのですが、今後、お客様へ、積極的に紹介していくと、もっと手にとっていただけるようになるのではないかと期待しています。



ひまわりパン工房でのちょっといい話 コロナの時だからこそ「お互い様」!

コロナの影響で販売する機会が減ってしまった事業所さんの力になりたいと思い、他の事業所さんの商品を販売するコーナーをつくりました。現在は、はーとアラウンドくまもとに加盟している事業所の商品を販売しています。

ただ、私たちが一方的に応援をしているのではなく、商品を置いている事業所さんは、ひまわりパン工房の紹介をSNS等で発信してくださっています。こんな大変な時だからこそ、仲間同士お互いに持ちつ持たれつ、できることを持ち寄って支え合うことの大切さを感謝とともに実感しています。

特定非営利活動法人自立の店ひまわりパン工房・カフェ

ひまわりパン工房

熊本市中央区国府1丁目13番8号

就労継続支援B型事業所

パンの製造販売



株式会社トライフ

オーラルピース販売についてのお問い合わせ先

UMU(担当:矢上 tel 096-221-9326)



諸藤 圭子

特定非営利活動法人自立の店

ひまわりパン工房・カフェ

サービス管理責任者

カエルデザイン × リハビリ型就労スペース「リハス」

カエルデザインは、就労継続支援A型事業所・リハビリ型就労スペース「リハス」と一緒に、金沢の海岸に流れ着いたプラスチックごみを拾い集め分別して洗い、さまざまな工程を経て、世界に一つのアップサイクルアクセサリを制作しています。障がいのある方たちが、1つひとつ手作業で価値あるものを生み出すことは、生きがいや、経済的な自立につながっています。2019年の秋、金沢から始まったこのプロジェクトは、今では北海道から沖縄の石垣島まで、海洋プラスチック回収の輪が広がっているそうです。たくさんの人を魅了する、ゴミから生まれた色とりどりに輝く美しいアップサイクルアクセサリを手掛けるカエルデザインに、その活動に対する想いを伺いました。

クリエイティブユニット・カエルデザイン



株式会社クリエイターズ
リハビリ型就労スペース「リハス」
就労継続支援A型事業所
石川県金沢市諸江町上丁307-25

カエルデザインwithリハスは、クリエイティブユニットのカエルデザインと、リハビリ型就労スペース「リハス」を利用する様々な障がいのある人たちがパートナーとなって、マイクロプラスチックなどの海洋プラスチックを回収し、アクセサリに加工する、アップサイクルブランドです。

＊アップサイクルとは？

サステナブル（持続可能）なものづくりの新たな方法論のひとつ。本来であれば捨てられるはずの廃棄物に、従来のリサイクル（再循環）のような素材の原料化や再利用ではなく、デザインやアイデアといった新たな付加価値を持たせることで、別の新しい価値のある製品に生まれ変わらせること。



活動内容

障がいのある人たちとともに海洋プラスチックやフラワーロス（廃棄花）をアクセサリなどにアップサイクルして販売しています。

日々の活動で大切にしていること

サステナブルであること、エシカル（地球環境や人、社会、地域に配慮した考え方）であること。

売れる商品づくりやファンづくりについてのヒント

自分たち自身、ブランド、商品が社会に存在する理由を常に考えながらものづくりをしています。社会的課題の解決につながる活動であれば、必ず共感が生まれ、共感は結果として売上につながると考えています。

コロナの影響とその対応策

東京などで予定していたPOPUPイベントが中止となったり、百貨店での販売が想定より売上が上がらなかったりしました。コロナ禍であろうがなかろうが、障がいがあるであろうがなかろうが、事業を行う上でサステナブルであることは最優先課題であり、存在理由にもつながると考えていますので、今後もブレずにサステナブル、そしてアップサイクルに取り組んでいきたいと思っています。

熊本の事業所へのメッセージ

熊本の皆さんも、理念、ビジョンとは別に、ブランドパーパス、目的、存在理由を明確にすると何を何のために作るのか、誰に売るのが明確になって、結果として売上につながると思います。



県外のさまざまな取組

福祉は楽しい！そんな感動をくださる魅力的な福祉事業所さんが日本にはたくさんあります。独創的で先駆的な全国の活動から、熊本でも生かせるヒントをいただきます。

相談員&研究員による視察①

NPO法人まる・株式会社ふくしごと



樋口 龍二

NPO法人まる代表理事／株式会社ふくしごと 取締役副社長

1997年、福祉作業所「工房まる」と出会い、障がいのある人たちの表現に魅了され入職。2015年、「株式会社ふくしごと」を、地元福岡の企業やクリエイターたちと共同設立。既存の福祉や障がい者といった概念を心地よく揺さぶり、柔軟に対応できる「まちづくり」として様々な活動を行っている。

工房まるや株式会社ふくしごとなど多方面でご活躍されている樋口龍二さんに、「福祉をかえる」ことについてのお話を伺いました。

福祉との出会いと工房まるの成立

工房まるを立ち上げた吉田（現：施設長）も私も福祉に関わったことはありませんでした。芸術大学出身の吉田は写真、私は音楽。そうした、表現を通してつながったのが工房まるで働くことになったきっかけです。

障がいのある方と関わるようになって、当時の福祉施設や周りの障がい者に対するコミュニケーションに少し違和感を覚えました。年齢に応じた接し方をしていなかったり、過剰に先回りした支援を行っていたり。そうした特別扱いを無くしていきたい、彼ら・彼女らのそのままの存在を社会とつなげたいと思いました。

そのために、これまでの福祉にはあまりなかったクリエイティブなことをやろうと話し合い、おしゃれでかわいいと思ってもらえる木工の雑貨をつくることにしました。売る場所は、福祉バザーではなく、雑貨店やギャラリーショップなどに営業に行きました。そこでは、福祉事業所でつくったということは表に出さずに商品そのもので勝負をしました。障がいのある人がつくったから買ってくださるのではなく、お客様にほしいと思ってもらえるものをつくることを当たり前と考えました。そこを妥協せずにつくったメンバーのイラストをデザインしたカレンダーやTシャツは、クリエイターの方々の目に止まり、工房まるの主力商品となっています。

障がい者支援

障がいのある人の「こうしたい！」という言葉や行動があって支援は始まります。そのためには、彼ら・彼女らにとって安心・安全の環境をつくるのが大切です。その環境があってはじめて、自分はこうありたいという欲求がでてきます。そもそも、何かにチャレンジしたいと表現できない環境が、障がいを生み出していると思います。だから、その人たちと社会との間にある「障がい」を柔軟にしていく。そうした安全な場に身を置き、自分づくりの道中でドキドキすることが、さらなる成長につながります。ちなみに、現在、工房まるでは一人暮らしにチャレンジすることが生まれてきました。

売れるものづくり

素材がいいからといって何も手を加えないままだと、魅力的な商品はできません。素材がいいからこそ、それを生かせるようにデザインして、生活の中に入りこめる商品にしていくことが大切です。工房まるの商品などのデザインは、ファンになってくれたプロのデザイナーに外注しています。

自分たちのつくったものがお客さんに喜んで買ってもらえて、給料がもらえる。そうすると、さらにつくるのが楽しくなる。こんな好循環があるから、魅力的な商品が生まれるのです。素材にはちゃんと手を加えて商品にしていくこと。工房まるのスタッフの半数は、まるで働くまで福祉に関わった経験がない人材で構成されています。支援者は、メンバーの才能の磨き手であり、その良さを伝え、ファンを喜ばせるプロデューサーの力が必要だからです。



これからの福祉

福祉をもっと幅広い意味にしたいと様々な事業にチャレンジしています。これまでの福祉のあり方にとらわれず、社会の新しい価値観をつくっていきたくて考えています。自分たちも楽しみながら、新しい福祉観をつくっていきたくて考えています。そのためには福祉という枠に収まってはいけません。新たなことにチャレンジするためには、資金も必要です。きちんと事業計画を立て、数字を出し、伸ばすもの、無くすもの、減らすものを見極め、徹底して計画を練り上げていく。数字と向き合うことが苦手という方も多いですが、経営する上で事業収入を増やしていくことはとても大切なことです。

また、福祉の世界を変えていくことだけでなく、障がいと社会の出会いの場をたくさんつくっていくことも、これからの福祉には必要なことだと思います。福祉事業所から何かをアウトプットする際に、地域の方々や学生に声をかけ、それぞれのできることで関わってもらいながらファンを増やしていく。事業所内だけで完結してしまうのではなく、つくり手、デザイン、販売など、色んな人が得意なことを持ち寄って一緒に新たなことを生み出していく。そうした小さな出来事を積み上げながら、福祉と社会のつながりが広がり、誰もがその一員であることを感じることでできると、いつの間にか誰もが生きやすい社会になるのではないのでしょうか。そんな風に社会が変わっていくと良いと思います。ただ、障がいのある人たちが、その人らしく生きるという「自立」を目指す理念がそのベースにあることは忘れずにいたいです。